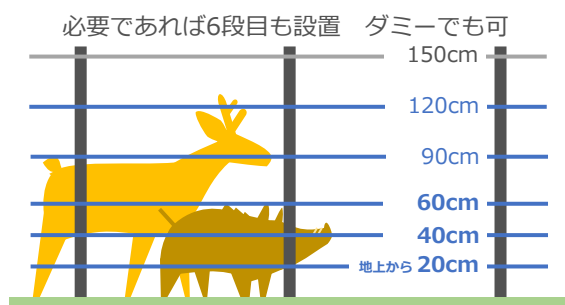


## 電気柵の設置・管理で見落としがちなポイントをチェック!!

### □ 効果的な電気線の間隔になっていますか？

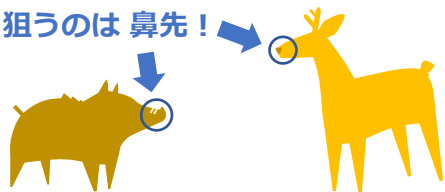
電気柵は跳び越えさせないようにして農地を守るのではなく、感電させて危ない場所だということを動物に学習させるための柵です。よって、動物が触りやすく、簡単には潜り抜けられない、越えられないように設置することが重要です。図は一例ですが、特に下4段の高さに注意してください。



動物に触らせることを意識して設置  
特に下4段の線の間隔に注意！

### ▶▶ 体毛に覆われている部分は通電性が低い

狙うのは 鼻先！



イノシシやシカは全身が硬い毛で覆われており、毛がある部分に電線が接触しても感電せず、感電させるには鼻先（口唇部）に電線を触れさせる必要があります。

イノシシやシカは見慣れないものを調べるときには鼻先を使います。そのため動物たちが電気柵を初めて見て、調べた時に確実に感電させ、学習させる必要があります。

最初にうまく感電せず、電気柵は安全なものだと認識されてしまうと、電線の間から突破されてしまいます。

### □ 動物が立つ場所は通電性が優れていますか？

動物が電線に触れた際に動物が立っている場所の通電性が低いとうまく感電しない可能性が高くなります。

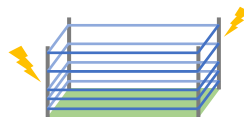
通電性が悪い場所の一例として、アスファルトや砂利などがあります。電圧計を用いた確認を行い、通電性のよい場所に動物が立つように設置してください。また、通電性が悪い場合、ワイヤーメッシュなど電気柵以外の防護柵を使うことも検討してみてください。



### □ 電気柵の設置時は作付けしていなくても通電していますか？

電気柵を設置している時は、作物を栽培していない場合であっても通電するようにしましょう。通電していない電気柵を設置していると、野生動物が触れたときに感電せず「危なくない」と学習してしまいます。

また、電線を張ったままにしておくと電線が傷みやすくなります。守るものがない時期や積雪によって電気柵の設置が難しくなる場合は電気線を撤去することも検討してください。



設置するなら**通電!**  
通電しないなら**撤去!**

## ⚠ 電気柵は正しく設置しましょう

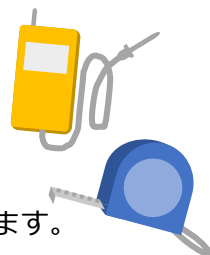
電気柵を正しく設置しないと事故につながる可能性があるため、説明書通りに正しく設置しましょう。また、農林水産省HP (<https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/tyuukanki/denkisaku.html>) などにも注意事項などがまとめられていますので参考にしてください。

## 持続的な獣害の抑制のために こまめに点検を実施しましょう

### 点検時の持ち物

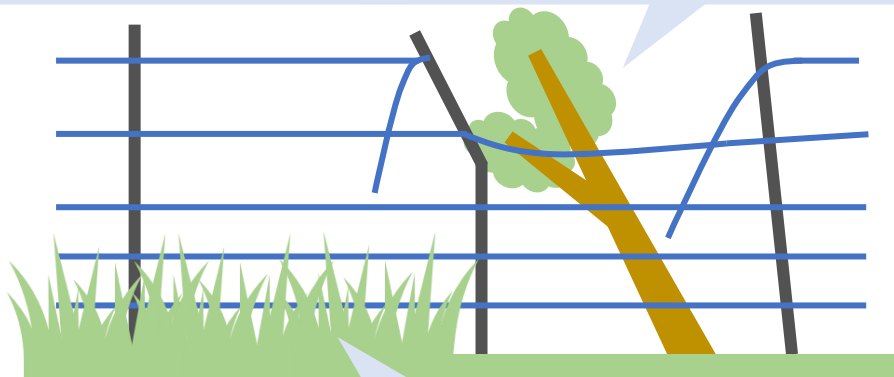
- 電圧計  
電圧計は必須アイテムです。電気柵は5,000v以上の電圧は確保してください。
- メジャーなど高さが測れるもの  
特に下4段の電線の高さを確認してください。目安の高さは裏面に記載しています。

上記二つは最低限の持ち物です。他にも補修資材や鎌などを準備するといと思います。



### 点検ポイント 1 電線や支柱の異常はありませんか？

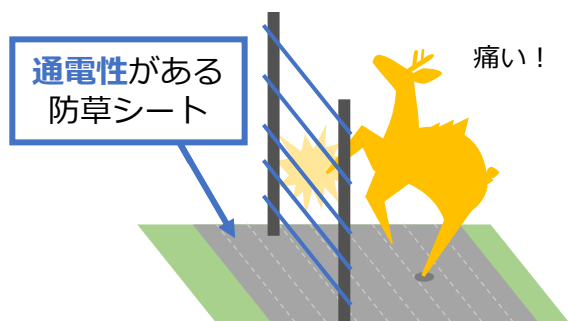
強風による落枝などによって、電線の切断やたるみ、支柱の倒伏や傾きが発生することがあります。また、野生動物が感電した際に驚いて電線の間へ突進してしまうこともあり、それによっても電線や支柱が傷みます。設置して終わりではなく、日頃から電気柵に異常がないかをしっかり確認するようにしてください。



### 点検ポイント 2 電線に雑草が触れていませんか？

電線に雑草が触れてしまうと漏電し、電圧が低下します。夏場などはすぐに雑草が伸びてきて草刈りが大変ですが、こまめな除草をお願いします。また、パチパチと電気柵から音が出ているのは漏電しているサインです。雑草以外にも電線に触れているものがないか、電線のほつれがないかなどを確認してください。

### 通電性のある防草シートは利用可能



どの種類の防護柵であっても柵周りの雑草管理は重要ですが、特に電気柵の管理では除草作業が大きな負担となります。

除草の負担軽減のために防草シートを設置することも可能ですが、電気柵周辺に設置する防草シートは通電性がある防草シートを選んでください。普通の防草シートの上に動物が立って電線に触れても、通電性が低下して十分な効果が得られないのでご注意ください。